



平和への願い

戦後75年 忘れてはいけない戦争の記憶

今年太平洋戦争が終わって75年。終戦の年である1945年に生まれた人が75歳。人口の8割以上が戦後生まれである今の日本の中に、戦時中のことを思い浮かべ、語ることができる人がどれほどいるのでしょうか。「絶対に戦争をしてはいけない」という先人の願いを心に刻むために、今回は「尼崎の空襲」に焦点を当てて戦争を考えてみたいと思います。

都市に対する空襲は、戦争において戦闘地域の軍事施設を目標として攻撃するだけでなく、一般住民を総力戦を担う敵とみなして攻撃対象とし、彼らの住む都市に空から攻撃し、家屋が燃える、人が亡くなるなど悲惨な状況に陥らせることで、敵国民の戦争をする気力を奪い降伏に追いやる戦略です。1944年11月、米軍の空襲は本格化し、尼崎では8回の空襲がありました。中でも1945年6月1日と15日の空襲は特に大きな被害がありました。1日は西長洲・金楽寺・開明・杭瀬・梶ヶ島など、15日は難波・長洲・浜・下坂部・立花・杭瀬・大物・城内・開明など市内各所が焼夷弾(しょういだん)により攻撃を受けました。

・焼夷弾…敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾



焼け野原となった杭瀬商店街付近(中田寅一さん提供)



杭瀬寺島町内会防火訓練(中田寅一さん提供)



上=食糧生産のための農作業、下=防空訓練(吉田敏一氏蔵「昭和18年竹谷〔たけや〕国民学校初等科終了記念写真帳」より、本庁地域写真集刊行実行委員会収集写真)

・尼崎の空襲被災地・



はまみちこ 羽間美智子さんの手記より

羽間さんは、尼崎市出身の郷土史家で尼崎郷土史研究会の会員です。戦中体験を出来るだけ詳しく書き留めておくことをライフワークとして活動されています。

中谷村(現猪名川町)での疎開体験

食事は仕切りのついた白い丸いお皿にご飯とおかずを盛り、浅い木の椀に汁物を入れ、盛り切りでおかわりはありません。昼食には弁当を持って登校しました。はじめは煎り豆・柿・栗などのおやつもありましたが、秋頃から次第にご飯もおかずも量が少なくなり、冬には刻んだくあんや鰹田麩(かつおでんぶ・鰹肉を乾燥調味した加工品)を振りかけたご飯に、汁だけという日が続き、冬には刻んだくあんと鰹田麩(かつおでんぶ・鰹肉を乾燥調味した加工品)を振りかけたご飯に、汁だけという日が続いたこともあります。昭和20年の春頃(-中略-)食事は一層減って、朝夕は汁椀八分目ほどの、こうりゃんなどの入った固粥(かたがゆ)でした。弁当はご飯でしたが、副食とあわせて弁当箱の半分ほどにしかありません。それで授業をせずにイナゴを捕り、川原や山で野蒜(のびる)や蕨(わらび)、ぜんまいを採って食べました。

6月15日の空襲体験から

中谷村の学童疎開先から一時的に杭瀬の自宅に戻っていた6月15日の朝、空襲警報(午前7時54分)のサイレンが鳴ったので、家の裏の空き地に造った防空壕に待避しました。まもなく飛行機の爆音とシュルシュルという音がして、父が外から「ここはあぶない。陸橋の下へ逃げて行け」と叫んだので、全員防空頭巾をかぶり、西の方角の、国鉄尼崎港線*にかかる大物陸橋へ逃げました。

陸橋のガード下は満員でした。まもなく「シャーッ」という音がして、南側の視界が焼夷弾の雨でねずみいろになりました。たちまち付近の家が燃え出し煙が流れ込んできたのでガード下を出て、西へ逃げました。まだ午前9時頃でしたが煙で夜のように暗く、黒い雨が降ってきました。

尼港線から東は、国道の両側が燃えている様子なので、陸橋の上を通過して帰りました。陸橋から南を見ると、大物の方が盛んに燃えていて、一瞬影絵のように浮かび上がった家が見る間に炎のなかに崩れていきました。

家に戻った頃には雨はやんでいて、隣保の人が集まり(皆が無事で)「よかった、よかった」と言い合っ、泣き出す人もいました。

*福知山線の支線として、神崎駅(現 JR 尼崎駅)~金楽寺駅~尼崎駅(昭和24年に尼崎港駅と改称、南城内)を結ぶ路線(昭和59年廃線)

参考文献

- 『図説 尼崎の歴史—近代編』第4節 十五年戦争下の尼崎 8 空襲と戦災(辻川敦) / 銃後、疎開、空襲—尼崎市民の戦争体験—(羽間美智子)
- 『尼崎地域史事典』空襲

☆市内の平和モニュメントを紹介しています。

平和都市 尼崎市



・・ 平和について考えてみませんか? ・・

尼崎市は「世界平和都市」として、平和を願い、さまざまな事業を行っています。そして市内には、いくつもの「平和モニュメント」が、街並みの中で息づいています。これらのモニュメントを市民の皆さんが気軽に訪ねるきっかけとなるよう、ここに紹介しました。また、市内在住の戦争体験者のお話も掲載しています。このリーフレットに触れることで、平和の大切さや命の尊さを、あらためて考える機会になれば幸いです。

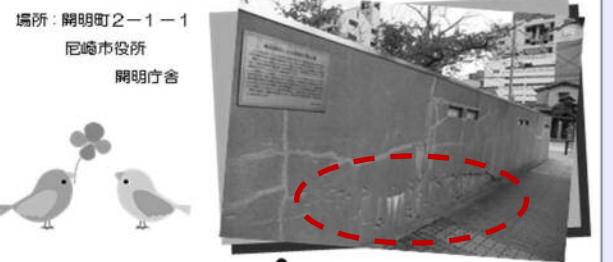
目次

平和モニュメントMAP	2
世界平和の輝き	3
尼崎が誇る平和モニュメント「Mother」	4
平和の女神像	4
平和の足跡 志保アゼール	5
博愛の碑	5
開明小学校の扉に残る機銃掃射の跡	6
志保児童公園の平和塔	7
市立公園の平和の礎	7
上ノ島児童館の「平和の礎」	8
平野「藤原共のおおつゆの記憶」	9
*新幹線の線路をこえて	10
*資料「14歳で兵隊員所に入って」	11
*平和都市・尼崎	12

◎ 旧開明小学校の扉に残る 機銃掃射の跡

旧開明小学校の南西の扉に、米軍機による銃撃痕と伝えられる跡があります。1945年6月1日に飛来した、P51戦闘機の機銃掃射跡と考えられています。尼崎市内に現存する、数少ない戦時モニュメントとして、また戦争の歴史と平和の尊さを学ぶために、説明板とともに保存措置を施して残されています。

場所: 開明町2-1-1
尼崎市役所
開明庁舎



編集・発行 尼崎市総合政策局ダイバーシティ推進課
増刷版発行 公益社団法人 尼崎人権啓発協会